

第10課「ユダヤ人と異邦人のための贖い」

安息日「今週のテーマ」

今週と次週扱うローマ人への手紙9章から11章でパウロはユダヤ人の不信仰と救いについて語っております。まず、問題提起として、神様は気ままな方？とパウロは切り出しています。13節、15節、18節（暗唱聖句）に書かれています。その目的は、神への見解が深められ、神があがめられるようになることでした。今週の学びで、神が憐れみをもって全人類（私自身）を救いたいと強く願っておられる方であることに気付くことが重要です。

日曜日「パウロの重荷」

パウロの重荷を、聖書には「大きな(深い)悲しみ」「絶えざる痛み」と書かれています。それは、神に選ばれ、模範の民として神を世界に示すために祝福を受けたイスラエルの民が、キリストを拒み、救いからもれていることでした。神に近づく時、より人を愛し、その人の救いを切望する姿をパウロは証しています。ガイドの一番下に、「真のイスラエル人とはどのような人のことでしょうか」と質問があります。それは、神に選ばれ、それに応答する人のことです。アドベンチストだから、クリスチャンの家系だから、長年信仰生活を送っているからではありません。パウロのように、愛の実践をもたらす信仰を持って生きる人のことです。

月曜日「選ばれた者」

今日の学びでは、「救い」と「役割」という言葉がキーワード（大切な言葉）となっています。もう一点は、わたしも救われるために神に選ばれていることです。ガイドの最後の色がついた部分を何度か読み、瞑想してみてください。

火曜日「秘められた計画」

出エジプトの時、神はなぜ10個もの災いをエジプトに下されたのか。なぜ、ファラオのこころをかたくなにされたのか。神の計画を人間的に考えれば疑問だらけになります。しかし神は、「わたしの思いはあなたたちの思いを高く超えている」と言われます。神様の現実はわたしたちの現実とは違う時がありますので、神の視点に立つために、より神を知り、その計画に信頼する信仰が必要となります。わたしたちの人生が神の計画のうちにあることが確信できれば、喜びと平安に支えられます。

水曜日「“アンミ”——『わたしの民』」

問4にある、ローマ9:25～29の基本的なメッセージとは、神がどのような方かを示すことです。「呼び戻す方」「愛し続ける方」、決して「気ままな方」「えこひいきする不公平な方」「不誠実な方」ではありません。神を訴える自分にこそ、そのような心があります。そのようなわたしたちをイスラエルの民を含めて、「生ける神の子」（26節）と呼んでくださる方がわたしたちの神です。

木曜日「彼らはずまずきの石につまずいた」

人間的考え方、見方、生き方をするものにとっては、イエス・キリストは「つまずきの石」「妨げの岩」でしかない。しかし、「イエスを知り、イエスを愛する人にとっては、イエスは『救いの岩』です。」